

りんご新しい性台木「JM1」「JM7」の利用法

りんご新しい性台木「JM1」「JM7」を利用し、結実部位 2.5m以下の低樹高栽培を可能とするため、品種に適合した台木と地上部台木長の組み合わせについて示した。

りんごの新しい性台木である「JM1」「JM7」は、わい化効果が高く、挿し木増殖性に優れ、果実品質が向上するという利点を持った台木である。そこで「JM1」「JM7」を利用し、結実部位 2.5m以下の低樹高栽培を可能とするため、品種ごとに地上部台木長とわい化程度、収量性、果実品質の検討を行い、品種に適合した台木と地上部台木長についてまとめた。

肥沃土壌において中密植（80本/10a、植栽距離：5×2.5m）で結実部位が 2.5m以下を目標とした場合に適する台木と地上部台木長は以下の通りである。

品種	台木	土壌 肥沃度	樹勢				収量性				果実品質				総合				
			10cm	20cm	30cm	40cm	10cm	20cm	30cm	40cm	10cm	20cm	30cm	40cm	10cm	20cm	30cm	40cm	
さんさ	JM1	上位	-	-	-	-													
	JM7		+			-													
つがる	JM1				-	-													
	JM7		+	+	+	+													
JG	JM1																		
	JM7		+	+	+	+													
ふじ	JM1		+	+		-													
	JM7		+	+	+	+													
			中位 (改植園)	()				()				()				()			

【凡例】 :良 :やや良 :不良 + :強樹勢 - :弱樹勢

上に示した表は、肥沃な新植土壌での結果であり、改植園や肥沃度が低い土壌では、やや強めの生育を示す台木の組み合わせを選択する。また、植栽距離を 5×2.5m以下にする場合には、やや弱めの生育を示す台木の組み合わせを選択する。

ここでいう土壌肥沃度上位とは、有効土層が深く（80cm以上）腐植に富む新植地である。土壌肥沃度が中位の土壌や改植園に「ふじ」を植栽する場合は、品質が優れる「JM7」を利用する。